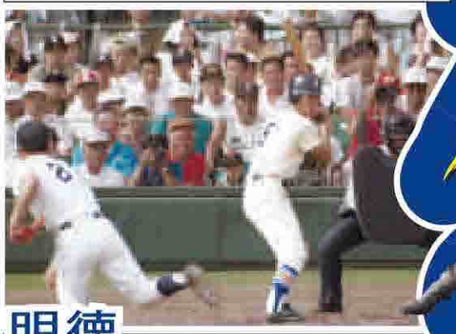
19日開幕センバツ組み合わせ決定

敬遠上等!!



明徳 馬淵監督「全打席？松井に怒られるわ」

無走者でも…明徳の勝ち

▽松井秀喜の5打席連続

敬遠　92年夏の甲子園2回戦で星稜と対戦した明徳義塾は、4番・松井を5打席全て敬遠で歩かせた。1点リードの7回2死無走者でも勝負せず、5打席目、9回2死三塁での敬遠＝写真㊤＝の際には、アルプス席からメガホンなどが投げ込まれ、試合が一時中断する騒ぎとなった。松井は全20球、一度もバットを振らず、明徳義塾が3―2で勝利。試合後、高野連の牧野直隆会長（当時）が異例の記者会見を行うなど「フェアプレーの精神」を巡り、社会問題化した。

「お客さんに言われる」名将も苦笑い

早実との対戦が決まった瞬間、明徳義塾・馬淵監督は「聞かれると思った」という。相手は全国No・1の大砲で、誰もが25年前の夏の星稜戦を思い出す。「お客さんには〝また敬遠するなよ〟と言われると思います。まあ、試合の状況次第ですよ。場合によっては敬遠する」と苦笑した。

「清宮君の大会みたいに盛り上がっている」と話し、実力にも「松井の打球は鋼の力があった。清宮君は柔らかさ。飛距離が出る捉え方を持っている」と一目置く。ただ、〝あの夏〟のように極端な指示は出さないつもりだ。「ノーランナーでの敬遠は考えていない。全打席？ない。松井に怒られるわ」。外野の守備位置も極端なシフトを敷くことは否定した。

山口主将はキャプテントークがあった前夜、宿舎で清宮と風呂で野球談議に花を咲かせたという。「優勝するためには勝たないといけないチーム」と力強く口にした。

甲子園通算歴代5位の48勝を誇る明徳義塾・馬淵監督

早実初戦あの明徳と清宮

第5日第2試合

第89回選抜高校野球大会（19日から12日間、甲子園）の組み合わせ抽選会が10日、毎日新聞大阪本社オーバルホールで行われ、高校通算79本塁打の清宮幸太郎内野手（3年）を擁する早実（東京）は明徳義塾（高知）との対戦が決まった。92年夏の甲子園で星稜（石川）の松井秀喜（元ヤンキース）を5打席連続で敬遠した策士、馬淵史郎監督（61）が率いる相手。清宮は敬遠覚悟で勝利に貢献することを誓った。【関係記事6面】

同じく左の強打者

明徳義塾と左の強打者―。因縁めいた好カードの実現に会場がどよめいた。明徳義塾の山口主将が「28番」と読み上げると、先に27番の枠に入っていた清宮は思わず左手で口を押さえて苦笑いした。甲子園通算歴代5位の48勝を誇る馬淵監督が率いる強豪。清宮は「伝統校で手ごわい。あとは、やっぱり松井さんのやつ（敬遠）じゃないですかね」と印象を挙げた。

清宮の注目度の高さが考慮され、2校だけ抽選会場とは別に会見場が用意された。両校の監督、主将が並ぶ。隣で馬淵監督のだみ声が響く中、清宮は松井の5敬遠について「もちろん（知っている）」とし、「（馬淵監督は）野球の知識や経験も豊富。場面に応じた策をたくさん知っていると思う」と警戒。自身が敬遠される可能性については「そこは相手の作戦なので自分が何かを言うことはない」と答えた。

対戦が決まり明徳義塾・山口主将（右）と握手する早実・清宮主将（撮影・坂田　高浩）

㊤くじを見せる

「そこは相手の作戦なので」

敵将と笑顔で握手

「自分は常にチーム打撃で打点を稼ぐことがモットー。相手どうこうよりそれが最も大事」。敬遠策の前に松井の星稜は敗れたが、早実は後ろの4番を打つ2年生・野村も頼もしい。勝利のためにはバットを振らず一塁に歩く構えだ。会見場と抽選会場を行き来する際の廊下では、敵将と笑顔で握手を交わした。

初の抽選には「（心臓が）ばっくばくでした。こんな緊張したくじ引きは初めて」と苦笑いした。組み合わせが決まり、あとはグラウンドで暴れるだけだ。抜群の知名度で甲子園にファンを集める大砲。「球場の雰囲気を変えられる野球ができるのは自分たちだけ。応援してくれる方々と球場の雰囲気をのみ込むようないい試合ができれば」と力強く誓った。

2本塁打、打率・474と鮮烈なデビューを飾った1年夏以来の聖地。「2度の冬を乗り越えてきて、前の甲子園より成長した姿を見せられるんじゃないか」と爆発を予告する。王貞治（現ソフトバンク球団会長）を擁した57年以来60年ぶりの優勝へ、四国大会王者を打ち砕いて弾みをつける。

（東尾　洋樹）

動じない性格「心に余裕」

日本筆跡心理学協会の根本みきこ会長が、1年夏の甲子園と今センバツの出場に際して清宮が記入したアンケート用紙の筆跡を鑑定。人間性を評価し、この約1年半の成長を見て取った。

筆跡心理学協会会長が鑑定

根本会長は清宮の筆跡から「人との交際が上手でかわいがられ、いろんな人を味方につけてやっていくタイプ」と人間性に太鼓判を押した。

まず、清宮の「宮」のうかんむりや口の右上部が1年夏と比較してやや丸みを帯びた点に着目。「丸まっていると行動に柔軟性がある」とした。また、幸太郎の「太」の右払いが1年時には内側に入っているのに対し、今回は外側に伸びているとし「思い切りがよくなり、ポジティブになったと解説。「郎」の偏とつくりの間は広く「心に余裕が出てきて、人間としての幅が広がった。間が広い人は人間関係を円滑にできる」と主将としての適性に触れた。

相手の策にも動じない度量の一方で、「宮」の「口」の左下の部分には隙間があり「下が空いているのはツメが甘い」と分析。「大リーグで本塁打王」という夢へ「ツメの甘さを克服するのは世界で活躍するために大事」とエールを送った。

早稲田実業 高校	ふりがな	きよみや こうたろう
	氏名	清宮幸太郎

↑1年夏↓今大会　1年半の成長「郎」の偏とつくりの間が広く

早稲田実業学校高等部 高校	ふりがな	きよみや こうたろう
	氏名	清宮幸太郎

◆清宮を待ち受ける好投手◆

準々決勝　第9日（27日）第4試合　16:00

静岡　池谷　蒼大　③左　最速144キロ。神宮で打たれ再戦熱望

準決勝　第10日（29日）第2試合　13:30

作新学院　大関秀太郎　③左　前エース今井後継者は強気が売り

決勝　第11日（30日）12:30

履正社　竹田　祐　③右　昨秋神宮大会優勝果たした145キロ腕

1回戦　第5日（23日）第2試合　11:30

早実　清宮幸太郎　③左　高校通算79本塁打。超高校級大砲

明徳義塾　北本　佑斗　③左　優勝した四国大会は30回自責点1

神戸国際大付　黒田　倭人　③左　昨秋公式戦10戦10勝と不敗の左腕

大阪桐蔭　徳山　壮磨　③右　140キロ超力代ルデット代表するエース

仙台育英　長谷川拓帆　③左　防御率0.89は32校のエースで1位

東海大市原望洋　金久保優斗　③右　秋10完投。最速147キロで大台狙う

2回戦　第8日（26日）第2試合　11:30

※○数字は学年

☆紙面編集　岩永　成樹